

行政政策学類



震災からの復興、コミュニティの再生といった

地域が抱えるさまざまな課題に取り組み、

持続可能な地域づくりに貢献できる人を育てます。

- 地域政策と法コース
 - 地域社会と文化コース
 - 行政政策学類夜間主(社会人教育)
- 地域政策と法コース / 地域社会と文化コース

Admission Policy

こんな人に学んでほしい

行政政策学類では、現代の地域社会が直面している諸課題について、広く学際的な観点から学び、より暮らしやすい健康で文化的な地域社会を作り出すために、卒業までに次の5つの力を身につけたいと考える学生を受け入れます。特に夜間主は、働きながら学ぶ人、さまざまな社会経験をもちに学びたいと考える人を対象とします。

- 法・政治・行政・社会・文化などの研究分野に関する基礎的かつ専門的知識
- 国・地域・社会における諸課題を自ら発見し、調査・分析する能力
- 発見し、調査・分析した諸課題につき、解決する能力
- 学際的な創造力で社会に貢献する応用的な能力
- 修得した知識・考察した結果を発表し、議論する能力

取得できる資格

- 中学校教諭一種免許状(社会) ※1 必要単位を修得し、卒業後1年以上、社会教育主事補としての職に従事することが必要です。
- 高等学校教諭一種免許状(地理歴史・公民) ※2 「博物館に関する科目の単位」を修得することが必要です。
- 社会教育主事(基礎資格) ※1・社会教育士 ※3 必要単位を修得し、卒業後、地方公務員として任用され、福祉事務所などの部署に配属される必要があります。
- 学芸員 ※2 ※ 行政政策学類夜間主では、教員免許状の取得はできません。
- 社会福祉主事(任用資格) ※3

卒業後の進路

- 国家公務員(一般職、裁判所職員、国税専門官など)
- 地方公務員(都道府県庁、市町村職員、警察官など)
- 教員(公立学校、私立学校)
- 司法書士・行政書士などの法律専門職(法科大学院進学者を含む)
- 民間企業(建設、製造、運輸、情報通信、金融、医療、専門サービス業など)
- 法人職員(社会福祉法人、商工会議所など)
- NPO/NGOなどのスタッフ
- 大学院進学(福島大学、東北大学など)
- 民間プランナー
- 各種協同組合の職員
- 学芸員(博物館・埋蔵文化財)
- 社会教育関係(公民館)職員
- マスコミ



学類紹介MOVIEをチェック!



Curriculum カリキュラムの特長

地域課題に取り組む「知と活動の拠点」、行政政策学類。
多様な「学びのかたち」で道を切り拓く！

行政政策学類では、理論研究からフィールドワークまで、さまざまな「学びのかたち」を使って、現代社会の課題や、地域が抱える問題の核心に迫ります。1年次には、幅広い教養を学びながら、「大学での学びの基礎(大学生としての基礎力)」を修得します。2年次進学時には、それぞれの関心にしたがってコースを選択します。3、4年次には、教員十少人数の学生で運営する「専門演習」を基盤に、自分が「解き明かしたい!」「解決策を提案したい!」と思う課題に、より専門的に迫ります。「卒業研究」は4年間の学生生活の総まとめ。斬新で個性あふれる研究成果が期待されています。

アドバイザー教員

研究の方法や進路など大学生活全般のアドバイスを行います。下記の担当教員をアドバイザーとする少人数教育(最大で20名程度)を行います。

1年次：スタートアップセミナー/問題探究セミナーⅠ担当教員
2年次：問題探究セミナーⅡ・Ⅲ担当教員
3年次～4年次：専門演習担当教員

学類長メッセージ

学際的に、アクティブに、
地域社会に貢献する人材を

行政政策学類は、法・政治行政・社会・文化について有機的かつ総合的に学び、探求し、地域社会の課題に迫ることを目指しています。コースは法・政治行政などを中心に学ぶ「地域政策と法コース」と、地域社会・地域文化・言語文化などを中心に学ぶ「地域社会と文化コース」の2つ。これらを学際的に学び合うことにより、「自治体政策」、「人権」、「地域振興」、「福祉」、「歴史」、「多文化共生」など、多様なテーマを深めていきます。また、行政機関や地域の人びと・団体と協働してフィールドワークを行うなどアクティブ・ラーニングを重視しています。夜間主の社会人学生とともに学び合うのも魅力の1つです。

少子・高齢化、地球環境の変動、ICT技術の進化など、私たちを取り巻く環境が激変していく中、人文・社会科学に求められる役割も、より大きくなっていくことが想定されます。行政政策学類で学ぶことを通して、社会や地域のさまざまな人々に貢献できる人として育ってほしいと思います。学友も含めた多くの人びとと接しながら、自らの興味関心を伸ばし、自分らしい学びを進めて下さい。

行政政策学類長 **垣見 隆禎** 教授

教員紹介

地域政策と法コース	
荒木田 岳上	(地方制度史、地方行政論)
上 床 悠	(行政法、公法史、法政策)
堀見 隆植	(行政法、地方自治法)
金井 光生	(憲法、憲法哲学)
岸見 大平	(現代政治論、政治理論、政治哲学)
金 学輝	(民主主義)
黒崎 輝	(国際政治学、国際政治史)
阪本 尚文	(憲法史)
徳谷 弘康	(法社会学)
鈴木おぐみ	(政治法)
大黒 太樹	(政治過程論、先進産業社会の比較政治(ドイツ))
高橋 有紀	(刑事法、刑事政策、司法福祉)
中里 真	(民法(特に契約法)、消費者法)
西田宗 保子	(行政学、都市行政、都市・地域政策)
長谷川 珠子	(労働法、社会保険法)
福島 隆一	(商法(特に保険法))
山崎 昶彦	(民法、方法論)

地域社会と文化コース

浅野 おかろ (社会教育論、職業教育、訓練論、教育学)
岡部 浩一 (日本中世史)
板倉 有希 (地域社会学、災害研究、ジェンダー論)
西今 一男 (都市計画論、都市社会学、社会調査論)
岩崎 由美子 (社会計画論、農村生活論)
加藤 真義 (理論社会学、社会学説史、農村社会学)
菊地 芳朗 (考古学による古墳時代社会の復元)
金 和雄 (言語文化交流論)
久我 知久 (文芸社会学)
後藤 史子 (アメリカ文化・アメリカ文学)
板本 惠 (スコットランド・イギリス文学、現代思想)
佐々木 康文 (情報社会学、情報経済論、災害情報論)
新藤 雄介 (メディア論)
鈴木 典夫 (地域福祉、地域援助技術(コミュニケーション))
高橋 準 (社会学(現代社会学、社会運動論、ジェンダー論))
田村 奈保子 (フランス文化、フランス文学)
照沼 かほる (アメリカ文化・文学と映画を中心に)
徳竹 剛 (日本近代史、地域史)
奥本 香由 (環境社会学、地域環境論、沖縄研究)
野村 しょう子 (第二言語習得、英語教育、文学)
村上 雄一 (日本経済史)

[詳しい経歴はこちら](#)



		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
学びの目標		行政政策学類における学びの基礎を学ぶ		専門教育の本格的開始 アクティブ・ラーニングの実践		専門知識の応用力・ 実践力を身につける		専門知識を深めるとともに、 大学における研究の成果を示す	
専門教育		学類共通科目 ■現代法学論 ■社会学原論 ■民法総則 ■社会と文化の理論 ■現代政治論		学類基礎科目（2コースとも共通の科目群です） ■憲法 ■行政学 ■社会計画論 ■社会福祉論 ■比較地域文化論 ■文化史 ほか ■法社会学 ■地方行政論 ■地域社会学 ■社会調査論 ■考古学					
		問題探究セミナー 第2セメスターの「問題探究セミナーⅠ」から専門的な教育が始まります。問題探究セミナーは、少人数で行う演習形式の授業で、文献講読、討論、実地調査（フィールドワーク）などさまざまな手法で、テーマや課題に迫ります。		問題探究 セミナーⅡ・Ⅲ ■地域政策と法コース型 ■コース横断型 ■地域社会と文化コース型		コース専門科目 ■地方自治法 ■国際政治論 ■社会保障法 ■労働法 ■地方政治論 ■民事裁判法 ほか			
		卒業研究の提出 学士（法学）							
		地域政策と法コース 地域社会と文化コース				専門演習の実施 専門演習の実施		卒業研究の提出 学士（社会学）	
基盤教育		■スタートアップ科目（スタートアップセミナー） ■ライフマネジメント科目 ■外国語コミュニケーション科目		■キャリアモデル学習 ■インターンシップ				専門演習 専門演習では、より高度で専門的な手法を用いてテーマや課題に迫ります。参加者はより少人数となり、教員も含めそれぞれの学生が、自らの研究テーマをもって演習に参加することが求められます。専門演習での学びを通じて、4年間の学生生活の集大成としての卒業研究をまとめていきます。	
教養領域		■学術基礎科目 ■キャリア設計科目 ■健康・運動科目 ■外国語科目 ■情報科目							
問題探究領域		■問題探究科目 ■自主学修プログラム							
自由選択領域		自らの興味・関心にしたがって、基盤教育及び学類内外の科目から選んで履修する							

1年次 新たな科目に心躍る1年 基礎を固めつつ、興味を広げる

行政政策学類生のはじめの1年は、学びの基礎をしっかりと築くもっとも重要な期間といえます。英語に加えて、第2外国語の授業もはじまります。高校では出会ったことのなかった新たな科目に心を躍らせながら、1年次から卒業後の進路や生活を考える時間もしっかり用意されています。特に1年次に意識しておきたいのは、2年次以降、どの

ような専門領域に進んでも必ず必要とされる基礎知識を、しっかりと自分の中に定着させるということです。重要な指定科目をはじめ、これまであまり関心を持っていなかった科目も含めて、幅広く学んで視野を広げることが大切です。

学生生活は自分たちでつくる！

学友会と学生自治

学友会学生部会は、行政政策学類で開催されるイベントの企画・運営およびオープンキャンパスのサポートをする学生スタッフとしての活動などを行っています。行政政策の自治組織として、学生大会など学類の重要な機構に直接参加し、先生方とも関わりながら学生全体のために活動できることが最大の魅力。また、自分たちで計画した企画で、学類生が楽しむ姿を見られることがやりがいに繋がっています。皆さんも、私たちと一緒に楽しい学生生活をつくってみませんか。

地域社会と文化コース3年 有我 大輝さん
[福島県立清陵情報高等学校出身]



学生の自主的な活動

ウェブサイトはこちらから▶



合宿ガイダンスとシニター制度

シニターとは、行政政策学類に存在する新入生サポート団体です。主に新入生の履修指導や、新入生同士の仲を深めるためのイベントを企画・運営しています。1泊2日の「合宿ガイダンス」では、ゼミ討論会やウォークラリーなどを行っていましたが、現在は新型コロナウイルスの影響で中止となっているため、学内ウォークラリーやゼミ交流会などを行っています。ぜひ、行政政策学類へお越しください。新入生の大学生活は、シニターが全力でサポートします。

地域社会と文化コース3年 本田 君弥さん
[福島県立好間高等学校出身]



新入生合宿ガイダンス

ウェブサイトはこちらから▶



Pick Up!

大学で学ぶ方法の修得を目指す スタートアップセミナー

新書読解を通じてアカデミックスキルを習得する

金井ゼミは「大学での学問」を学修する際に基礎となるアカデミックスキルを丁寧に学ぶことができるゼミです。具体的には様々な新書の読解やレジュメ作成、学生同士でのディスカッションを通してアカデミックスキルを養っていきます。またゼミでは多くの考えをふまえて自身なりの意見をまとめ、疑問や問題の解決を進めていきます。このような「thoughtful」な学びはこの先の学習において大きな財産になるでしょう。

[山形県立長井高等学校出身]
高橋 鴻樹さん



「Z世代」を「Z世代」の視点から考える

本セミナーでは、「若者世代論を読む-Z世代とZ世代論を批判的に読む-」をテーマに学んできました。原田曜平氏の文献を読みながら、実際に「Z世代」である私たちの視点から「Z世代」について議論しました。

[福島県立会津高等学校出身]
河野 菜々美さん



コースを選択し専門的に学ぶ 問題探究セミナーⅡ・Ⅲ

地域政策と法コース

物事の本質捉えて発表する力の習得を目指す

法学系のクラス対抗法律討論会のための準備や、市主催の「福島市民のくらし展2021」でのパネル展示活動などを通し、各々の知識や新たに調べて得た知見を出し合っ、発表すべき本質を探る学習を重ねてきました。

中里ゼミ



地域社会と文化コース

東日本大震災発生から10年を機に学びなおす

新藤ゼミでは、2011年3月と2012年3月の福島民報、福島民友、河北新報の朝刊に掲載されている震災関連記事の比較を行いました。震災当時の出来事や各社の報道の違いを捉え、全体で活発な議論をもとにそれぞれが多様な視点での学びを深めていきました。

[福島県立原町高等学校出身]
安藤 禎基さん



古文書学実習

古文書類の記録保全の手法を実践的に学ぶ

古文書学実習では、古文書類のデジタル撮影や記録保全の手法を実践的に学びます。東日本大震災を機に、「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」や協定を結んでいる富岡町などと連携し、被災家屋から救出された古文書などの歴史資料の記録・整理に取り組んでいます。毎年夏には、2日間にわたる夏季集中作業を行っています。



行政政策学類 あぶくま学生支援事業

行政政策学類の学生および院生の取り組みを支援します

あぶくま学生支援事業は、行政政策学類の学生および院生が、自主的に計画・実行する、学びと地域活動等に関わる取り組みを支援するものです。これまでに伊達市梁川をフィールドとした「地域まるごと博物館」等の活動を助成しました。行政政策学類の発展と地域課題の解決等のために、学生および院生の皆さんの豊かな発想を活かした企画を募集しています。



2年次 コース選択とアクティブ・ラーニング

行政政策学類には、「地域政策と法コース」と「地域社会と文化コース」の2つのコースがあります。これらは「地域社会の課題に取り組み、よりよい地域社会に向けた新しい道を切り開く」といった目的に沿って設置されました。学生は、自らの関心に従ってコースを選択し、2年次(3セメスター)から研究に取り組みます。現代の地域社会が

抱える課題は計り知れず、学生が興味を持つ研究テーマも無限にあります。そのため本学類では、学生一人ひとりの研究テーマに必要な講義を、コースの枠を超えて自由に受講することができる環境を整備しています。関連文献の検索、フィールドワークの計画と実施など、主体的に研究が進められるようになっています。

地域政策と法コース

地域政策と法コースにおいては、法学、政治学及び行政学を中心とした科目を履修していきます。その教育目標は、「新しい地域づくり」を目指し、①「法政治」及び「地域行政」にかかわる知識を総合的、多角的に身につけ、②国及び地域の課題を自ら発見し、必要な法令・判例や文献を紐解き、地域の調査に行ったり

することにより実情を十分に把握し、基本的なリテラシーを活用し、③市民としての政治参加、企業法務及び公務員としての政策形成などにあたり、国及び地域のさまざまな社会現象に対応する問題解決を、地域の諸主体とともに考え、社会貢献ができる、というような人材を養成することにあります。

主な専門科目

- 「現代政治論Ⅰ・Ⅱ」 (現代の政治の諸現象を考える際の基本的視点や方法を学ぶ)
- 「政治過程論Ⅰ・Ⅱ」 (政治・行政を動態的に学ぶ)
- 「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方行政論」 (国と地方の行政について、歴史的・構造的な捉え方を学ぶ)
- 「国際政治論Ⅰ・Ⅱ」 (政治行政を国際的視点から学ぶ)
- 「憲法(人権)Ⅰ・Ⅱ」 (全世界の国民の平和的生存権に基づく人権について学ぶ)
- 「民法(不法行為法)」 (私人間における損害賠償のルールと判例について学ぶ)
- 「刑法Ⅰ・Ⅱ」 (罪刑法定主義に基づき犯罪と刑罰について学ぶ)

「問題探究セミナーⅡ・Ⅲ」テーマ例

- 原発訴訟
- 医療問題を通して紛争解決と法の役割・機能を考える
- 交通事故の法律問題
- 災害と平時一住まいの観点からー
- 世界からみた日本の人権問題

「専門演習」テーマ例

- 憲法学の名著を読む
- 民法を使いこなす
- 労働問題・社会保障問題の法的な解決
- 高齢・障がい犯罪者の社会的包摂と権利擁護
- 原発事故からの避難と自己責任
- 復興行政の課題を探る
- 比較の視座で捉える日本の政策課題とその対策



地域社会と文化コース

地域社会と文化コースには、社会計画系の科目、社会学系の科目と、多様な文化研究系の科目(教育、歴史、ジェンダー、比較文化など)が置かれています。

このコースの大きな特長は、「新しい地域づくり」という課題に応えるために、社会学系の科目を基礎にすえつつ、社会や文化が直面している諸問題を地域に即して、歴史的にあるいはグローバルな視野から考えていく力をつけるために各科目が配置されていることです。こうした力を獲得すること——それは公務員／民間企業を問わず、これからの日本社会の担い手にとって必要不可欠

①「社会計画」分野を中心に学ぶ

まちづくりやコミュニティづくり、より良い地域環境の形成など新しい地域づくりに関連した科目や、高齢社会に対応した人々の基礎的なライフスタイルや社会福祉のあり方に関連する科目を配置しています。

主な専門科目

- 「社会計画論」(社会計画的思考やその歴史と方法、望ましい計画のあり方などを学ぶ)
- 「社会調査論」(計画づくりに不可欠な地域社会や住民生活の現状を、現地調査を通じて科学的に把握する方法を学ぶ)
- 「社会福祉論」(高齢社会に対応した福祉社会・福祉政策のあり方、社会福祉の技術と方法について学ぶ)

②「社会学」分野を中心に学ぶ

激動する地域社会の動きや社会的な諸問題を総合的にとらえること、そしてそれらをよりよい方向に導いていくにはどうすればいいのかを追究することです。

主な専門科目

- 「社会と文化の理論」
- 「社会学原論Ⅱ」
- 「メディア論」
- 「社会学原論Ⅰ」
- 「地域社会学」

③「地域文化」分野を中心に学ぶ

地域社会の歴史や社会教育、ジェンダーといった問題を中心に学ぶことになります。

主な専門科目

- 「考古学」
- 「社会教育論(生涯学習論を含む)」
- 「古文書講読」
- 「文化史」
- 「ジェンダー論」
- 「古文書学実習」

なものです。また、このコースが提供する多様な学問領域や問題領域にわたる科目群は、皆さんの幅広い問題関心を受けとめる懐の深さがあります。自分の問題関心や将来の進路に合わせて時間割を組み、学修を主体的に進めていけるという魅力があります。1年次の学類基礎科目である「社会と文化の理論」と「社会学原論Ⅰ」が、「地域社会と文化」コースの導入的な科目です。2～4年次ではどのような科目を履修していけばいいのでしょうか？参考のために4つの分野を示し、説明します。

④「比較文化」分野を中心に学ぶ

地域社会の国際化にともなってきた諸問題を解決するために、多文化を理解するとはどういうことか、多文化受容とはどうあるべきかを追究することです。

主な専門科目

- 「比較地域文化論」
- 「国際文化交流論」
- 「English Presentations」
- 「言語文化論」
- 「英語コミュニケーション」
- 「中国語コミュニケーション」
- 「欧米文化論」

「問題探究セミナーⅡ・Ⅲ」テーマ例

- 地域再生と関係人口
- 映画館とまちづくり
- 孤立を防ぐ
- 他者のジェンダーに関する経験を聴く
- 雑誌から見える社会の一面面とその変化

「専門演習」テーマ例

- “食”と“エネルギー”から生産と消費のあり方と地域の自立を考える
- 都市の再生と住民による「まちづくり」ーコミュニティ・空間・計画ー
- 「吾妻鏡」を輪読する
- 社会教育と生涯学習をめぐる諸問題
- 多文化主義の過去・現在・未来ーオーストラリアと日本、そして、世界ー
- 物語から文化＆社会を知るーフィクションと社会の影響関係の考察
- 支援・ケアの社会学

Interview 在学生に聞いてみました！

Q. 今、夢中で学んでいることは何ですか？



「むらの大学」とゼミでの学びが刺激に

ゼミにおいて、憲法の勉強をしています。先生や先輩方との意見交換では、自分にはない発想や別の角度からの意見に刺激を受けています。また印象深いのは、1年生の時に履修した「むらの大学」で南相馬市小高区の住民の方に何度もお話を聞いたり、イベントで交流をしたことです。このような経験を通じて、私が目指す理想の公務員像ができあがったように感じます。講義でインプットしたことを地域で実践的に活かすことで、意味のあるアウトプットができていると思います。

地域政策と法コース4年
〔宮城県石巻高等学校出身〕

三浦 夢叶さん

知識欲を満たし、刺激をくれる学び

私は元々歴史を中心に社会学などいろいろなことに興味がありました。この学類は人間社会に関する幅広い勉強ができるので私の知識欲を満たし、刺激してくれています。また、ゼミ学習でテーマに応じて調査や思考を深めることで難しさや楽しさを知り、視野が広がっていく実感を得られました。こうやって、刺激と発見を繰り返し学んでいることは素敵だと思いませんか？

地域社会と文化コース4年
〔栃木県立石橋高等学校出身〕

楠田 かぐらさん



講義だけじゃない！ 行政政策学類 まなびのかたち

法律討論会

行政政策学類「地域政策と法コース」では、法律系ゼミによって法律討論会を開催する年度があります。専門的な知識と論理が必要とされる法律に関する問題を学生が中心となって立論を作成し発表・討論していきます。難題をゼミの議論を通じてみんなで考え、立論を作成して、上手く伝えて討論することなど、生きた学びを体験できます。



海外フィールドワーク実習

ドイツの農村地域で進む「再生可能エネルギーによる村づくり」。その取り組みは、人口数百～数千人規模の小さな自治体が担っています。住民800人の村にホームステイしながら、住民とのサッカー交流や農家訪問などを通じて、日本における持続可能な地域づくりに何が必要かを学びました。



学生論文集「嶺風(れいふう)」

嶺風編集委員会では、学生が中心となり、行政政策学類の学生論文集『嶺風』を編集・発行しています。『嶺風』には、学生が執筆した論文をはじめとして、エッセイ・小説なども掲載されています。大学での学びの場のひとつに『嶺風』はなっています。ぜひ、『嶺風』を手にとってみてください。

Twitterはこちらから▶



地域は大学生のフィールドだ

政治過程論演習

復興の基礎はコミュニティの復活からという考えのもと、私たちは相馬郡飯舘村の廃校を舞台に「1日だけの佐須小学校」復活イベントを企画しました。校歌を歌ったり、蕎麦打ちをしたりと久しぶりに集まった住民の皆さんと賑やかな1日を過ごしました。



社会福祉課題研究

現場で福祉を学ぶ科目です。私は介護老人保健施設で5日間の実習を体験し、介護の役割の広さを知りました。また利用者さんとの接し方など自らの課題を見つける力も身につけることができました。



考古学実習

実測図や拓本などの基本的技術を学んだ後、夏休み中に福島県内外の遺跡の発掘調査を行います。後期には発掘調査成果を報告書にまとめます。これらを通じ、考古学の専門職に就けるだけの知識・技術の習得を目指します。



3年次・4年次 4年間の学びと経験の集大成 個性あふれる「卒業研究」を完成

すべての行政政策学類生は、卒業時に「卒業研究」を提出します。「卒業研究」は、4年間の学びと経験、学生生活の集大成ともいえる大切なものです。その作成に向けて、どのような講義を受講するのか、また専門演習を履修して、どのような調査やインターンシップを実施するかなど、学

びのプロセスを自分の手で計画し、作りあげていくことになります。たくさんの先輩たちもそうであったように、途中で困難な状況に遭遇した場合は、アドバイザー教員がサポートします。個々の問題意識やテーマに従い、個性あふれる卒業研究をまとめることが求められます。

センパイの学び

「全世界の国民の 平和的生存権」から 3.11以後の 人権保障を考える

金井ゼミ(憲法)に所属。
学生サークル「災害ボランティア」
での活動などに取り組んできました。

3年次に選択した科目

■憲法(人権)Ⅰ・Ⅱ ■刑法Ⅰ・Ⅱ
■憲法(統治)Ⅰ・Ⅱ ■民法(不法行為)
■行政法総論Ⅰ・Ⅱ (債権総論)

4年次に選択した科目

■行政救済法Ⅰ・Ⅱ ■地方自治法Ⅰ・Ⅱ
■民法(債権各論)・ ■国際法Ⅰ・Ⅱ
(家族)

卒研のテーマ

これからの震災に備えて一東日本大震災は何を残したのかー

メディアづくりを学び、 地方創生への 活かし方を考える

佐々木ゼミ(情報社会論)に所属。
映像制作やローカルメディア分析
を通して、自治体支援のあり方を
研究しました。

3年次に選択した科目

■演習Ⅰ・Ⅱ ■情報社会論
■地域福祉論 ■地方政治論Ⅰ
■国際政治論Ⅰ ■欧米文化論Ⅰ
■福祉国家論 ■地域史Ⅰ
■国際公共政策論 ■言語文化論Ⅰ
■行政救済法Ⅰ

4年次に選択した科目

■演習Ⅲ・Ⅳ ■卒業研究

卒研のテーマ

クリエイティブディレクターと挑む地方創生

Interview

卒業生に
聞いてみました！

Q.
10年後の目標は何ですか？

課題解決能力を磨きあげ、
必要とされる行政マンに

スポーツ施設の建設や維持管理、イベント運営の業務に携わっており、昨年度は東京2020オリンピック聖火リレーを担当しました。大学では、フィールドワークを通して社会問題や地域課題にふれ、課題発見能力を養いました。現在の基礎自治体は解決すべき課題が山積みで、私たち自治体職員は知恵を絞り、汗をかかなければなりません。そのうえで私は、最短距離での問題解決に挑みたいと思っています。そのために課題解決能力を磨きあげ、組織に必要とされる行政マンになりたいと考えています。

相馬市役所教育委員会生涯学習部生涯学習課
スポーツ振興係 主査
行政政策学類 地域と行政コース 2016年卒業

星 涼太さん

行政政策学類 夜間主 「学び」と「仕事」の両立をサポート 専門的に社会と向き合いたい人へ

夜間主は、「大学で専門的な知識を得て、キャリアアップを目指したい」、「仕事と学生生活を並行して、社会経験を豊かにしたい」など、「働きながら学びたい」という願いに応えるために開設されました。学ぶコースは「地域政策と法コース」と「地域社会と文化コース」の2つ。2年次(3セメスター)への進学時に、それぞれの関心と目標に合う

せて、どちらかのコースに進みます。卒業時に得られる学位は、それぞれ「学士(法学)」(地域政策と法コース)と「学士(社会学)」(地域社会と文化コース)。長期履修制度や放送大学の活用、昼開講の授業の受講など、行政政策学類夜間主は、「学び」と「仕事」を両立させるための柔軟なカリキュラムを用意して、皆さんの大学生活を支えます。

Point!

1 夜間開講の授業の履修を基本としながら、柔軟な単位取得を可能にするカリキュラム

行政政策学類の昼開講授業の履修、放送大学や資格試験を利用した単位取得、長期履修制度などを組み合わせ(受講数に制限あり)、それぞれの就労状況に合わせて柔軟に学生生活を設計可能です。

2 入学科・授業料は半額

これまでの「現代教養コース」同様、入学科や授業料等は、半額となっています。

3 2つのコースから選んで地域課題に学際的にアプローチ

2年次進学時(3セメスター)から、それぞれの関心と目標にしたがって、「地域政策と法コース」もしくは「地域社会と文化コース」を選択します。

4 卒業時に得られる学位は「学士(法学)」もしくは「学士(社会学)」

卒業時には「学士(法学)」もしくは「学士(社会学)」が授与されます。

5 アルバイト・パートのみなさんもチャレンジ可能!

入学する年の3月31日時点で年齢が22歳に達している人、もしくは、年齢が22歳に達していなくても入試出願時に就職している人(主婦・主夫業も含みます)、就職が内定している者、または、入学後に就業しながら大学に通う意思がある人は、受験・入学することができます。

※就職・就業にはアルバイト、パート等を含み、「労働時間が週平均20時間以上のもの」に限ります。詳しくは募集要項をご確認ください。

地域政策と法コース

こんな人に学んでほしい

- 1- 公共部門の仕事に関心があり、法律の運用や政策形成について学びたい人
- 2- 職業で法律の専門知識を必要とする人や、地域や市民の合意形成に関心のある人
- 3- まちづくりや地域の活性化に興味があり、とくに法や政策の視点から学びを深めたい人

主な専門科目

- 日常生活と民法
- 裁判と法
- 行政と法I
- 地方自治と法
- 現代の地方行政
- 地域行政政策論
- 現代の国際政治
- ほか、指定された放送大学の科目 など



卒業時に得られる学位 **学士(法学)**

地域社会と文化コース

こんな人に学んでほしい

- 1- 農山村や地方都市の生活実態を知り、地域の持続可能性を高める施策や計画に関心のある人
- 2- 地域社会や歴史・文化に関心があり、公共部門やNPOなどで専門的業務に携わりたい人
- 3- 法律の運用や政策形成に社会の実態や課題をよりリアルに反映させたいと考える人

主な専門科目

- 社会計画論
- 地域福祉論
- ジェンダー論
- 地域史
- 言語文化論
- 国際文化交流論
- メディア論
- ほか、指定された放送大学の科目 など



卒業時に得られる学位 **学士(社会学)**

Interview 在学生に聞いてみました!

Q. 今、夢中で学んでいることは何ですか?



「関連性」を発見し、学びの楽しさを実感

「地元を支えられるような職業に就きたい」という漠然とした思いがあり、法律からみた行政、また地域社会に関わる事柄について学習できるこのコースを選択しました。今は法律をメインに学んでいます。法律とひと言でいっても、民法や刑法など種類があり、難しいことも多くありますが、知らなかったことを知り、また各々の講義で学習したことに関連性を見いだした時は、学ぶことの楽しさを感じます。ここでは人生経験豊富な社会人の方々と出会えたことで、得られるものもたくさんあります。働きながら学ぶのは大変ではありますが、得るものも多いのではないかと考えています。

地域政策と法コース 4年
[岩手県立宮古高等学校出身]

佐々木 詩乃さん

「高齢者の健康づくり」が学びのテーマです

震災からの復興、少子高齢化、過疎化など、福島県が抱える問題を学び、福島県のためになることをしたいという思いからこの大学を選び、夜間主に通っています。そして今、「高齢者の健康づくり」をテーマに、地域福祉といった行政からの取り組みや、健康寿命の延伸には何が必要かなど、高齢社会に向けてできることを考えています。その過程で、中山間地域の問題などにも興味を湧いてきました。福島大学は地域とのつながりを重視し、フィールドワークを行う環境も整っています。また、震災に関して実体験をもとに学ぶことができるなど、ここにしかない学びの環境は、とても魅力的だと思います。

地域社会と文化コース 4年
[福島県立須賀川桐陽高等学校出身]

小林 柊斗さん

